

# Acanthus

特集インタビュー

## 双方向遠隔授業システム完成

金沢大学 共通教育機構長 田中一郎

Campus Trend ランチョンセミナー

ヤングパワー 悩める金大生の味方“ピアサポーター”

産学連携 シーズをビジネスへ開花させる

医療最前線 “天使の手”で最高の手術を

地域と歩む 「市民大学院」開講

海外からの報告 インドと日本の違いについて

Dou!Sou!Kai!便り 金沢工業会

歴史探訪 啓明学校、石川県中学師範学校

ニュース&トピックス

## 田中一郎

金沢大学 共通教育機構長（金沢大学大学院自然科学研究科教授）  
北陸地区国立大学連合協議会 学生教育系専門委員会議長

# ※ 双方向遠隔授業システムが完成！ 北陸の六国立大学が、 一つの教室空間としてつながります

「北陸地区国立大学 双方向遠隔授業システム」竣工記念式典が、去る5月18日、金沢大学をはじめ北陸三県六つの国立大学で行われました。式典そのものを、この竣工したばかりの遠隔授業システムを活用し、別々の大学にある四つの教室を結んで開催。これだけの規模でネットワークされたものとしては、まさに全国初となる画期的なシステムの完成を祝いました。金沢大学の共通教育機構長として、また北陸地区国立大学連合協議会の専門委員会議長として、このシステムの完成に尽力された田中一郎教授を、機構長室に訪ねお聞きしました。

### 初代の共通教育機構長として教養教育を見据え続けている

—田中先生は教養部廃止後に発足した教養教育機構の機構長を平成12年から務められ、平成16年に共通教育機構長と改称されるとその初代機構

長に就任されました。つまり、一貫して教養教育を見据えてこられたのですよね。

（田中教授）大学の教育課程は、従来から教養的科目と専門科目の二本立てであり、この基本路線には変わりがないのですが、教養的科目の教養は、学部垣根を取り払い全教員が手分

けて行うように機構改革したというのが、いわゆる教養部の廃止の意味です。

学内のマンパワーを最大限に活用するという意味では、一番いい方法だと今でも思っています。

—では、共通教育機構になった当初

### 学生にとっては復習や予習に、教える側にとってはチェックに

—授業を受ける学生側にとっての具体的なメリットを一つ挙げて頂きますと。

（田中教授）昔はデキる生徒のノートをみんな回していたけれど、これからはDVDがその役目を担うというはどうでしょう。（笑）

実際、双方向で行った授業の内容を、先生の話や学生の質問はもちろん、板書された事柄や使用された資料などを、DVDに自動的に収録してコンテンツ化しますので、要望に応じて貸し出しをするなり、あるいは視聴していただくという事は簡単にできます。

もちろん、授業というものの一つの著作物と考えられますので、そのあたりをクリアするという課題は残っていますが。

—学生は復習に使えるし、先生は自分の授業のチェックに使えるということですね。（田中教授）場合によってはやむをえず欠席した学生がそれを見て授業についていける



に教養教育の在り方として、必要になってくるのは必然だとの思いはありました。

ただ、北陸三県とはいっても距離があり、その克服がやはり問題でした。全国的にも単位互換制度などを大学間で結んでおられるところもあるのですが、結局は大学間の物理的な距離が学生たちの行き来を阻んで、有名無実化しているところが少なくありません。

そういう距離的な問題を克服するにはどうしたらいいかということになると、やはり双方向の授業システムが不可欠ですし、そのためのシステム構築のために議論を尽したつもりです。

### 目指したのは距離を超えた対面式授業の実現



※注意：平成17年10月からは、富山大学、富山医科薬科大学及び高岡短期大学が統合し、新「富山大学」として発足するため、四国立大学となる。



特集インタビュー「双方向遠隔授業システム完成」  
田中一郎  
金沢大学 共通教育機構長（金沢大学大学院自然科学研究科教授）  
北陸地区国立大学連合協議会 学生教育系専門委員議長

え方はあると思いますけれども、やはり熱意があれば、どこまででも予習もでき、復習もできというのがやはり一番いいことかなという気がしています。

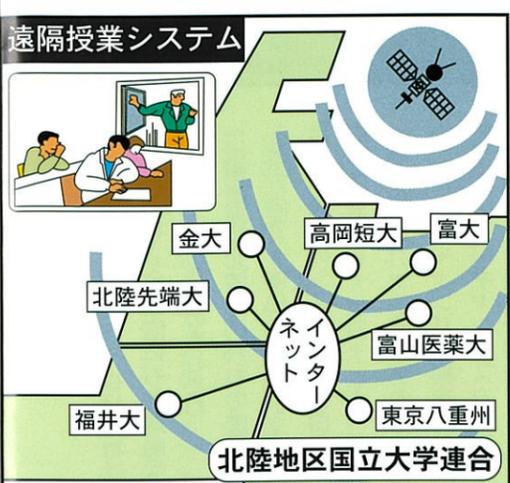
また、先生方もやりっ放しということではなくて、またそれを参考に授業をさらに洗練するときなど大いに役立つと思います。

### 今後ますます期待されるさらなる大学間連携の推進

（田中教授）双方向遠隔授業というのは、大学間で人材を補完しあえるというメリットももちろん大きいのですが、もっと積極的な面にも期待をふくらませています。

つまり、六大学の専門家が集まったから初めて実現可能な授業もあると思うのです。

例えば、一つ北前船をテーマに取り上げた場合ですが、日本史としても、経済史として



も、あるいは地域学・地方学としても、さらには日本海の海流・気象学としても展開できるわけです。

こういった複眼的な授業というのは、なかなか一大学では実現できなくて、六大学の人材を結集して初めてできるかなと思います。

一なるほど、一つ一つの知識を複眼的に学ぶことで、まさに知恵となるということですね。

（田中教授）そうですね。これまでは教養教育であれ、専門教育であれ、「何々学」として学生に教えていたわけですが、学生のニーズとか、あるいは社会の複雑化とかを考えると、「何々学」という形で授業を提供しても、学生にはそれほど満足感はないのではないかと思われます。

一つのテーマや課題でもいろんな学問からの見方があって、専攻している学問から見た見方が唯一のものではないという「知恵の会得」を、学生自身はもちろん社会もまた望んでいるのではないのでしょうか。

そういう意味でも、多くの人材、特に六大学の人材を集めて新しい授業を立ち上げるといったことは、学生にとって非常に刺激になると確信しています。

—他でも北陸地区の成功を参考にしたい、同じようなシステムが立ち上がっていくと思われませんか。

（田中教授）もちろんそうなると思いますし、その時のためにも、少なくとも我々は先行者として全国のモデルとなるようなものを構築して、全国に双方向遠隔授業システムの活用方法、あるいは人材の活用方法を提案していきたいと考えています。

双方向遠隔授業システムを新たに立ち上げようと思えば北陸地区を参考にせざるをえない、そういうレベルにまで完成度の高いものにしていただきたいと思っていますし、またそう出来るかと確信しています。

### 来春からの本格的導入を視野にこの秋に八講座を試行予定

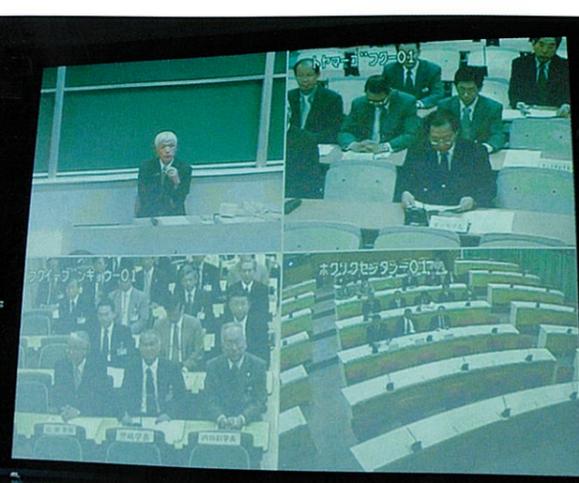
—来年4月からの本格稼働を視野に入れて、この秋から試験的に開講しますね。

（田中教授）はい、例えば「コーヒーの世界」という講座など面白いと思いますし、他に文化人類系の特殊講義など、まず八科目を開講し、来春から順次本格的に科目を増やしていく予定です。

—多くの学生たちの反応、感想を今から楽しみになさっているのではないのでしょうか。

（田中教授）はい。先生がスクリーンに映っている他大学の学生を指さして指名すれば、その学生はスクリーンの向こうの先生が、あたかも自分を指さしているかのように見ることが出来ます。

また先生のいる教室の学生は、後ろを振り向くと、あたかも後ろに座っている学生が指名された、あるいは発言しているというふうに見えるわけで、学生たちがこのシステムを具体的に体験し、どんな感想を口にするのか今から本当に楽しみにしています。



### 六大学の人材を結集して複眼的な授業を





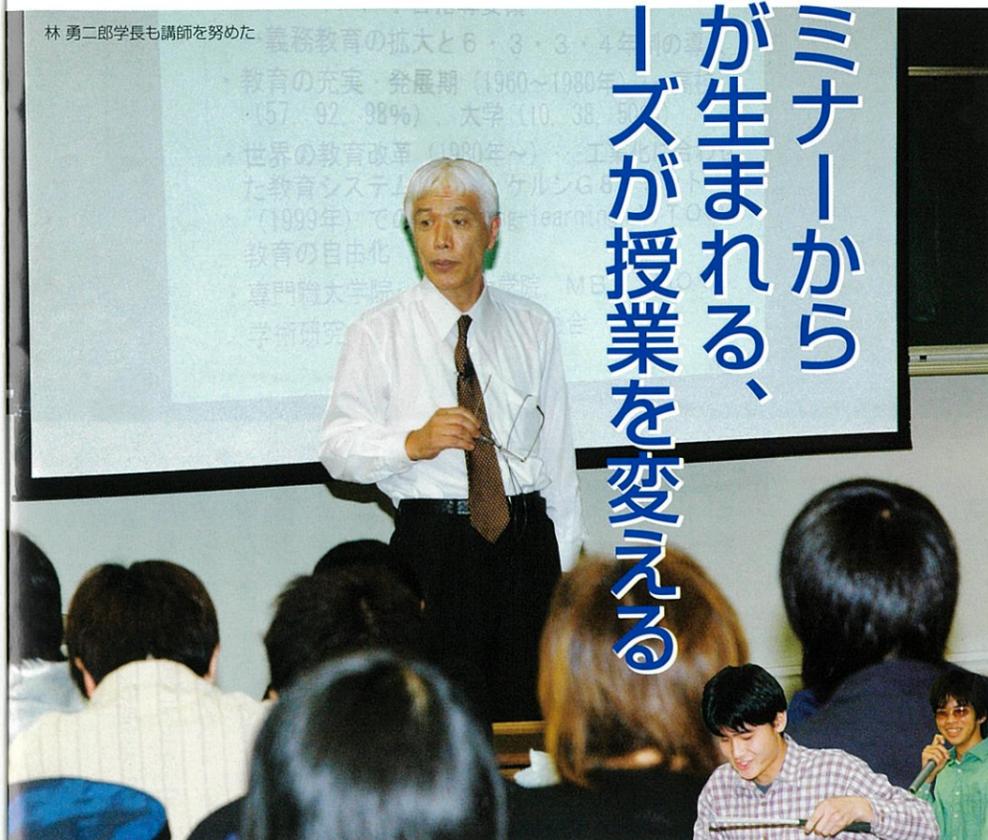
大学教育開発・支援センター長  
青野 透教授

# ランチョンセミナーから 新たな授業が生まれる、 学生のニーズが授業を変える

## 学生たちの居場所を作る

「**昼**」の学生たちに居場所を与えたい」が、セミナー開催を思いついた最初のきっかけだったと青野教授は言う。角間キャンパスでは、混雑する学食以外に昼休みを過ごす場所がない。ゆっくり食事できる場所を提供し、その時間を利用して学習・研究に役立つ知識を学生に提供する。そんな目的でセミナーは始まり、

昼休み時間に、学生たちがお弁当を広げながらミニ講座を聴く。金沢大学角間キャンパス総合教育棟の階段教室でほぼ毎日見られる光景だ。「角間ランチョンセミナー」と名づけられた30分間のミニ講座は、2003年の6月の開始から今年6月末までに延べ200回以上開かれている。セミナーを主催する大学教育開発支援センター長の青野透教授にお話を伺った。



林 勇二郎学長も講師を務めた

講師を務めるのは、大学の教員・職員、学外の方、留学生など。テーマは「大学からの英語の学び方」「自然科学の研究者になりたい人のために」など学問への動機付けとなるもの、「転学部希望者のために」など将来の進路を考えるための情報、「交通安全」「エイズ」など快適な学生生活を送るための情報、学生の学習成果発表など多岐にわたる。セミナーのほ

つた。

講師を務めるのは、大学の教員・職員、学外の方、留学生など。テーマは「大学からの英語の学び方」「自然科学の研究者になりたい人のために」など学問への動機付けとなるもの、「転学部希望者のために」など将来の進路を考えるための情報、「交通安全」「エイズ」など快適な学生生活を送るための情報、学生の学習成果発表など多岐にわたる。セミナーのほ

か課外活動サークルが企画する「ランチプロジェクト」や「音楽系サークルが発表する「ランチョンコンサート」も開かれている。

受講者は平均50〜60人。「レポートの書き方」「大学院進学」などすぐに役に立つテーマでは100人を超す学生が耳を傾ける一方、「大麻の危険性」「エイズの知識」など硬いテーマにはなかなか学生が集まらないそうだ。

## 学生のニーズを取り入れた新しいテーマ

「**ラ**」ンチョンセミナーで学生に好評だった内容が、大学の正規の授業に取り入れられた例もある。人気の高かった「レポートの書き方」については、いくつかの教養科目で教えるようになった。また、来年度から新たに開講される「大学・社会生活論」の授業には、セミナーでその必要性が明らかになったテーマが授業の一部として取り入れられることになった。学生のニーズが大学の授業を変えるきっかけとなったのだ。

セミナーが始まった頃は毎日のテーマに貫性がなく、できるものからやっていたが、2004年5月に「国際交流月間」と銘打って、海外への興味を喚起させるテーマを集中させたところ、リピーターも増えて好評だった。最近では、新入生向け



「歴史教科書問題」で、留学生と日本人学生が討論したセミナー



フィルハーモニー管弦楽団によるランチョンコンサート



立ち見も出たランチョンプロジェクト「体育系サークルの紹介」

## ランチョンセミナーは ニーズを把握する アンテナ

「**ラ**」ンチョンセミナーは学生のニーズを把握するアンテナ役なんです。その時代ごとに学生の望むものは変わっていく。大学が与えたいものと彼らがほしいものは違っているかもしれない。望むものをそのまま与えるのではなく、両者をすり合わせる実験の場としてセミナーはあるんです。正規の授業では実験はできないですからね」と青野教授はセミナーの意義を語ってくれた。

ランチョンセミナーから新たな授業が生まれる、学生のニーズが授業を変える。大学全入時代を間近に迎え、学生のニーズをいかに捉えて教育に反映させていくかが、大学の大きな課題であるが、ランチョンセミナーはその一つの場を提供しているようだ。



ジャグリングアンドマジックサークル(JMC)によるランチョンプロジェクト

6月13日。様々な企業、様々な役職の方々が金沢大学に集まって、本学が開催するセミナー「ビジネススクリエイト工房」の集大成ともいえるプレゼンテーションが行われた。

ビジネススクリエイト工房の目的はただひとつ。金大が持つシーズ（＝特許）を教材に、新しいビジネスを開拓する技法・能力・センスを身につけるといふものだ。

提供されたシーズは、簡単に油水を分離する方法であったり、画期的な燃焼法であったりと、ひとつの「技術」にすぎない。その技術をどう「ビジネス」へと昇華させるかが本セミナーの根幹なのだ。

例えば、燃焼法シーズをベースにビジネスプランを発表するグループ。現

### 産学連携



### 使命はシーズをビジネスとして創造する

## シーズをビジネスへ 開花させる!!

「シーズとは日本語で「種」。  
どこまで伸びて、どのような花が咲くのか。」



多喜氏の的確なアドバイスを  
受講者の、ビジネスプランの幅を広げていった



2. 現状の問題点

- ↑スクラップ自動車  
プラスチック部品の取外し
- ↑飲食店  
排水（油、洗剤）
- ↑お焚き上げ  
故人の遺品（衣類など）の処分方法

### ビジネススクリエイト工房が 創りだす新たな市場

ビジネススクリエイト工房が創り出すのは、シーズを組み込んだ「商品」ではない。シーズを核とした「市場」なのだ。

例えば燃焼法を組み込んだ焼却炉を作ったとすれば、その商品を販売するだけでビジネスが終わってしまう。こ

「まったく問題ありません」

参加者からも指摘が飛び、産廃を燃やして煙は大丈夫なのか。すかさず、特許の考案者である大学教授が答える。

「まったく問題ありません」

ビジネススクリエイト工房が創り出すのは、シーズを組み込んだ「商品」ではない。シーズを核とした「市場」なのだ。

例えば燃焼法を組み込んだ焼却炉を作ったとすれば、その商品を販売するだけでビジネスが終わってしまう。こ

「シーズとは日本語で「種」。  
どこまで伸びて、どのような花が咲くのか。」

前の述べた物の流れ、金の流れは生まれないはずだ。

知的財産部で勤務する電子メーカー社員は言う。「シーズをビジネスとして創造する。ここまでやるとは思わなかった」

また、銀行に勤める男性と中小企業診断士の男性は語る。「ベンチャー企業の顧客や経営相談に来る方々に、これまで以上のアドバイスをすることができそうだ」

そして誰もが、これだけ多種多様な業種の方々とコミュニケーションできたことは大きな財産であると答えてくれた。

シーズとは日本語で「種」。  
どこまで伸びて、どのような花が咲くのか。

当セミナーの修了者が美しい花を咲かせることを期待したい。

工房のメイン講師を務める多喜義彦 金沢大学客員教授  
(システムインテグレーション(株)代表取締役社長)

## close-up young power

### 悩める金大生の味方

# 「ピア・サポーター」

東向きに窓があり、日当たりのよい室内。落ち着いた色のソファにクッションが置かれ、観葉植物が気持ちよさそうに葉を伸ばしている。

「ピア・サポーター・ルーム」

2004年10月に開設された、学生による、学生のための相談室は、金沢大学の学生が気軽に悩みを打ち明けられる場所だ。

### どんな些細なことでも お気軽に

部屋にはピア・サポーターと呼ばれる学生ボランティアが月々金の13時から16時まで常駐している。

「お気軽にどうぞ」と、手書きのポスターが掲げられた入り口には、担当者

者の学部と性別なども併せて掲示。優しい雰囲気の内と同じく、悩みを抱える学生にとってはうれしい配慮だ。どんな些細なことでもいいし、逆に本当に深刻なことでも

「とりあえず、話してみようかな。くらしい気持ちで来てください」

そう語るのピア・サポーターの一人。直接的な解決に結びつかなくても、話すだけで元気が出る、話を聞いてもらえただけで楽になる、そういったことは多いのだそうだ。

同じ金大生だからこそ  
わかることも

ピア・サポーターになるには、半年間カウンセリングの基礎を専門家から学ぶ必要がある。それゆえ専門家には及ばないものの、悩みを抱えた人のつらさや苦しみ、話を聞いてあげるといふことの重要性を、サポーターはちゃんと理解している。

「それでも私たちは本物のカウンセラーではありませんから、力が及ばないこともあります」

そんな時、サポーターは、相談に来た人に、本学のカウンセラーである鈴木健一先生やそのほか適切な専門機関を紹介するという。

「架け橋とか、入り口とか、そういう



た役割ですね」

本人たちが言うように、確かにピア・サポーターは「本物のカウンセラー」ではない。しかし「金沢大学の学生」なのである。

「相談したい人が入りやすいよう、部屋のドアは開けっ放しなんですよ」

悩める金大生。彼らには、カウンセラーよりも頼りになる、そんな味方がついているのかもしれない。

- ピア・サポーターの皆さん  
男性7名/女性6名  
(2005年7月現在)  
専門家から半年間、トレーニングを受けています。安心してお越しください。
- ピア・サポーター・ルーム  
開室: 毎週 月曜～金曜  
3～4限 (学休期間を除く)  
場所: 保健管理センター南分室内  
(自然研バス停正面)
- お問い合わせ  
学生支援課 学生相談係  
076-264-5254  
メール  
peer@ad.kanazawa-u.ac.jp  
ホームページ  
http://www.ad.kanazawa-u.ac.jp/ad\_gakusei/campus/kousei/soudan/peer\_top.htm

※サポーターは2人ペアで相談にあたります。学休み期間は閉室しています。



お気軽に!

ピアサポートルーム  
開室中

☆本日の担当者☆  
教育4年  
女  
法学2年  
女

# ”天使の手”で 最高の手術を

**渡邊 剛** Watanabe Tsuyoshi  
金沢大学教授 心臓血管外科



心臓の表面を走る冠動脈。心臓の筋肉、心筋に酸素や養分を送る重要な血管である。動脈硬化によってこの血管が狭くなれば、狭心症、完全に詰まってしまうと、心筋梗塞となり、命にかかわる。渡邊剛教授はこれら、虚血性心疾患の治療法である、冠動脈バイパス手術のスペシャリストであり、99.7%という世界最高水準の成功率を誇っている。「実は今日も手術があるんだよ。」  
多忙なスケジュールにもかかわらず、快くインタビューに応じてくれた渡邊教授。いろいろな話を伺った。



渡邊教授ただ一人である。また渡邊教授は1999年に、世界で初めて内視鏡を用いた冠動脈バイパス手術も成功させており、挑戦はとどまることを知らない。  
**類** 稀なる技術。渡邊教授はその継承に關しても熱心だ。手術に必要な手先の器用さ、そして冷静な頭脳。それらを併せ持った人材を発掘し、自分の技術を受け継がせる。渡邊教授は言う。「それは大学人としての私の使命ですね」  
**そして、夢の実現へ**

**そ** の患者さんにとって最高の手術を

渡邊教授の心構えだ。冠動脈バイパス手術は、人工心臓を用い、心臓を止めて、行うのがかつての主流であった。しかし、その方法では患者に負担が大きく、二定確率で術後合併症を引き起こしてしまう。

## 人工心臓は用いない

経験上明らかに合併症が起きる。重篤な患者を前に、渡邊教授は1993年、日本で初めて人工心臓を用いない「心臓を動かしたまま」での冠動脈バイパス手術(オフポンプ・バイパス術)を行った。つなぎ合わせる血管の直径は1.5〜2.0mm。当然手術の難易度は格段に上がった。しかし、術後合併症の発生率は大幅に抑え

られたのだ。

冠動脈バイパス手術には全身麻酔を使用する。前述のオフポンプ・バイパス術も例外ではない。しかし、患者の中には他の病気を併せ持ち、全身麻酔をかけられない状態の人

## 全身麻酔も使わない

「その患者さんにとって最高の手術を」それでも、渡邊教授の心構えは揺るがない。1998年、局所麻酔でオフポンプ・バイパス術を成功させる。患者は執刀中も意識があり、術後、たったの一週間で退院することができた。現在、日本でこの手術を行えるのは渡

## 技術の継承は 大学人としての使命

オフポンプ・バイパス術の回数は1000例を越えた。重篤な患者のみに行う、局所麻酔でのバイパス手術もすでに50例を超えている。限りなく100%に近い成功率、そして卓越した技術。しかし、渡邊教授の視点は更なる高みにある。「私の夢は、日帰り心臓手術です」朝に手術をして、夕方には元気に歩いて帰ってほしい。」それが、渡邊教授の目指すところだ。――彼は、天使の手”を持っている。周囲からそう称される渡邊教授。これからもその手で、多くの人の命を救っていくことだろう。

# もっと学びたい！ 「市民大学院」開講

市民が大学教員によるゼミを受けながら、自分の研究テーマを1年にわたって研究し論文にまとめるという金沢大学の「市民大学院」が5月21日から開講した。ゼミ受講生23名中14名が60代以上と、時間に余裕のある高齢者に人気だ。受講生に研究への意気込みを聞いた。



▼この日のゼミでは、2人の受講生が今後の研究の進め方を発表した

## 生涯学び続けたい

この春に16年かけて大学を卒業したという70代女性のMさん。中学卒業後、家の大黒柱として働いてきた彼女は、子供が成人したのをきっかけにこれからは自分のために生きようと決意した。知識がないために不利益を受けた経験から、高校の通信制から始め、働きながら高校、大学を卒業。そして、金沢大学の市民大



▼憲法9条をテーマとした大学の卒業論文では、何十冊もの本を読んだり、新聞切り抜きを集めたりしたと話してくれたMさん

院を知り、かねて知りたかったと思っていた自分の生まれた町の宗教のルーツを探ることを研究テーマに選んだ。

Mさんは「生涯学び続けて常に何かを求めている。自分史を書いて子供や孫に残そう」とその講座も受けているんですよ」と楽しそうに話してくれた。

定年退職後にこれまで興味があった白山信仰や文学について学び始めた60代男性のMさん。県民大学や大学の公開講座を受講したが、ただ聴いているだけの講義に物足りなさを感じていた。市民大学院では、他の受講生の研究方法が参考になり、自分の研究への意見も聞ける。相互に「ミニミニレポート」することで学ぶ意欲が増すという。

「定年後、女性では25年以上も時間があまる。赤ちゃんが成人になるより時間が長いんですよ。大学には、もっと高齢者が

意欲的に学べるしくみを作ってほしいですね」と大学への注文も。

## 意欲に応える 多様なメニュー

市民大学院では今回「北陸の宗教と民俗」「金沢ゆかりの文学」「韓国と北朝鮮の諸問題」の3つのゼミが用意され、それぞれ研究指導を受ける30回のゼミと、ゼミに關係する基礎知識を得る10回の基礎講座で構成される。ゼミでは受講生が研究の進め方を発表しあい、教員から調査のポイントや文献についてアドバイスを受ける。金大の博士課程を修了した市民大学院教員が資料検索や取り寄せ方法などを手助けする研究支援の時間も用意されている。



1ゼミの受講料が9千円と安いことから、正式に大学院で学ぶには経済的負担が大きい市民も手軽に受講できる。ただ聴くだけでは物足りない。学びことに意欲的な市民が増えている。この意欲に応える多様なメニューを用意することが、大学の社会への貢献の一つとなりそうだ。

2004年の8月から2005年の7月までの1年間、大学間交流協定校であるインドのブネー大学附属のバンドルカル研究所に留学している大学院生から、インドと日本の違いを感じたことについて報告してもらいました。

文学研究科2年 清水 茜

英語、現地語、梵語の三言語が飛び交う梵語学部の授業は、インド伝統の一方的な講義が主流ですが、未確定の授業時間が常に学生を振り回しています。より貪欲に学問を志す学生(留学生)たちは、先生やパンデットの下で個人授業も受けています。インドの学問は、伝統的に記憶を重視する傾向があり、1科目3時間に及ぶ大学の試験では、学生は、問題を予想して丸暗記し



プライベートレッスンを受ける清水さん(左)



ブネー大学メインビルディング

た回答を、制限時間いっぱい自らの記憶力を総動員して、白紙のA4判の解答用紙12枚にただひたすら書き込みます。インド人の類まれな記憶力に脱帽する瞬間です。

インドの本との出会い

図書館の利用には、諸書類の提出や保証金の支払いによってメンバーシップを得ることが必要です。晴れて会員になると、入口に荷物を預けて、本の検索に移ります。梵語学の分野はまだ紙力カタログが主であり、目的の本に出会うまでには、しばしの辛抱が必要です。本の貸し出しには、教授や適格者の一筆が必須ですが、破損の危険性のあるものは原則貸し出し禁止となっています。また複写に関しては、依頼が可能ですが、傷みの激しい書籍の場合は、依頼者負担で二部のコピーが要求されます。時々、記載もれている本や、カタログにあっても書架にない本があつて、大変困りますが、司書と顔なじみになると、その親身な助けによって、運良く欲しい本が見つかることがあります。顔売っておくことの重要さが身にしみる瞬間です。

※梵語はインドの文脈であるサンスクリット語の一種。  
※パンデットはインドの伝統文化・学識を口頭伝承で伝える知識人のこと。



▲工学部と自然科学研究科学生が学ぶ自然科学研究科棟

●金沢工業会(金沢大学工学部同窓会)

新キャンパスで新たな発想を

金沢工業会理事長 山田 実

金沢工業会ホームページ URL: http://www.t.kanazawa-u.ac.jp/Kogyo/kogyo.htm/

支部総会などにおいて会員相互の親睦と情報交換を行なっている。近年は、学部や学科別であった金沢大学の種々の同窓会が協力し合うようになつてきた。金沢工業会では、既に東京支部や近畿支部で、法・経・文同窓会との合同懇親会を開始している。

金沢工業会の事務室は、大正9年から85年間の歴史を持つ小立野のキャンパスから、平成17年6月3日に、角間キャンパスの大学院自然科学研究科棟へ引っ越した。新キャンパスでの部屋はアルミルーム(Aumni Room)と呼ばれる部屋で、理学部と薬学部と同窓会と同居になった。写真は我が金沢工業会が使っている



「新しいキャンパスで、新たな発想を組み込みたい」これが金沢工業会の願いである。

Dou!Sou!Kai! 便り

工学部あるいは工学系大学院の就職率は、ほぼ100%を維持している。学部と修士の就職希望者は100名程しかないのに、500~1000名の求人が来ている学科もある。

工学部の就職率が良いのは、学生諸君の努力にも起因するが、社会における先輩諸氏の活躍が金沢大学工学部の名を高めているからである。

金沢工業会は、大正9年(1920年)に開学した金沢高等工業学校、その後の金沢工業専門学校、そして昭和24年(1949年)からの金沢大学工学部の卒業生による同窓会である。生存している会員数22000人程である。卒業生だけでなく、工学部教員も金沢工業会の会員であり、大学と社会の橋渡しに尽力している。

金沢工業会には、全国で17の支部があり、

2- 啓明学校、石川県中学師範学校

金沢での高等教育のパイオニア

資料館客員研究員 板垣 英治

明治4年の廃藩置県後、石川県は学制を改革して旧教育機関を廃止、小学校卒業生の増加とさらに高度の教育の必要性から、新たに中学校教員養成のために4年制の中学師範学校を9年2月20日に仙石町に開校しました。この学校は「文物ヲ煥發啓明セントスルコト」を目的として「啓明学校」と名付けられましたが、翌10年7月には「中学教員ヲ陶冶センカ為メ」に校名を「石川県中学師範学校」と改めました。

これは明治8年に東京師範学校に中学師範学科が設置されたのに倣ったものであり、全国に他に例を見ないものでした。

本校は現在の金沢中央公園の仙石町通り中程にありました(図1、写真1)。職員は、元石川県学務専任の野村彦四郎校長と百束誠助副校長、英人ランベルト教長、教諭8名、助教諭5名で構成され、入学生は168名でした。教則によれば、甲、乙の二部として、



図1 加賀金沢細見図(明治9年9月) 金沢市立玉川図書館近世史料館蔵

それぞれに下等の基礎教育2年間4学期と、上等の教育科目(5門)普通全科、理化両学、外国語、政体学、農学の2年間4学期の教育が行われていました。しかし、まだ洋学が盛んでないこと、教科が乏しいことから外国人を教長として、特に甲部では洋書を専ら用いての教育でした。

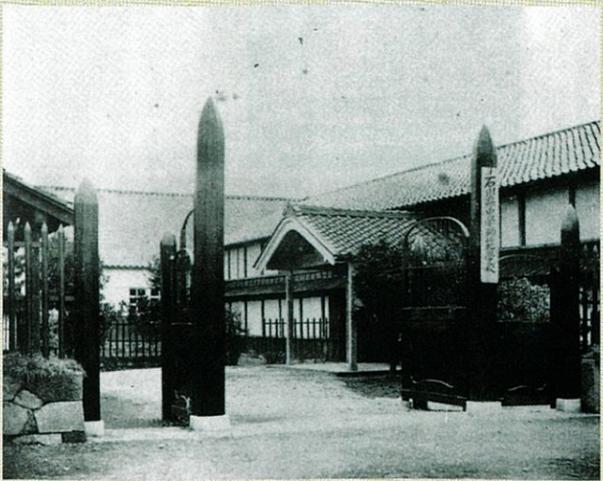


写真1 石川県中学師範学校 「明治の日本一宮内庁書陵部所蔵写真」吉川弘文館、2000より引用

ランベルトの後任として、11年8月から23才の米人ホイットニー・ウィリス(Norton Whitney)が教長となり、英語と物理・化学の教育を行いました。しかし、その勤務期間はわずか11ヶ月に過ぎず、翌年夏には東京に去っています。続いてウィーニン(Thomas Clay Winin)が着任しました。

教員で注目されるのは数学の関口開です。関口は加賀藩の藩校で学び、この学校と石川県専門学校(次回掲載)で教鞭を執りました。関口は和算をまず学び、次に西洋数学を独学して、22冊の数学書を翻訳・著作しました。中でも明治6年に出版した「新選数学」は22万冊も売れたベストセラーです。関口の薫陶を受けた北条時敬は東京大学理学部数学科に進み、卒業後石川県専門学校で教鞭を執り、その教え子に西田幾多郎がいます。西田は一時、北条家に寄宿し教えを受け、更に第四高等中学校では、初め理系で数学を学んだほどです。彼にとって北条は生涯の先生であつたといわれるほど深い関係があつたのです。北条はその後、第四高等学校校長、広島高等師範学校校長、東北帝国大学総長、学習院院長等を歴任しました。また、徳田秋声もこの学校に在籍していました。

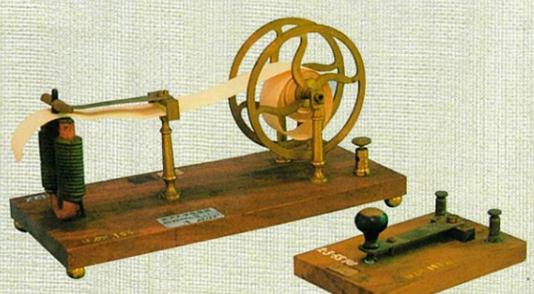


写真2 明治11年の文部省交付器械「電信器雛形」金沢大学資料館蔵

文部省は明治11年2月に全国の師範学校に物理教育の補助のために一組110点の物理器械を交付しました。本校に交付されたその器械の一部53点が現存することが最近明らかとなりました(写真2)。本校は僅か5年の存続で、明治14年7月には高等専門学校を目的とした石川県専門学校となりました。

このほか、金沢大学のニュース&トピックスは、金沢大学公式ホームページでご覧いただけます。  
http://www.kanazawa-u.ac.jp/

●自然科学棟と創立50周年記念館「角間の里」竣工記念祝賀会

5月16日、角間キャンパスで自然科学棟と創立50周年記念館「角間の里」の竣工記念祝賀会が行われた。  
自然科学棟は、総合移転第Ⅱ期事業として平成10年4月に着工、この3月に自然科学系図書館棟が竣工し、主な建物ほぼ完成。  
理・薬・工の各学部と自然科学研究科の理工系学部等の教育研究拠点となる。



竣工した自然科学棟



式典でテープカットする林学長(中央)ら

●法務研究科の優秀学生に報奨金贈呈

6月1日、法曹を目指して勉学に励んでいる大学院法務研究科(法科大学院)の優秀学生に対し、金沢大学法曹会(会長・池田良兼、会員らで作る「金沢大学法科大学院法曹養成支援基金」)から報奨金が贈られた。金沢大学法曹会は法曹資格を持つ本学卒業生で作る会で、会員と法経文同窓会会員有志からの寄附により基金を設置、1回めの贈呈となる今回は、法務研究科1期生のうち、特に優秀な学生4名に10万円、優秀な学生5名に5万円がそれぞれ贈られた。



●海外留学フェア2005開催

学生に海外留学への興味・関心を持ってもらうと、6月2日から7日までの平日4日間、海外留学フェアが開かれ、延べ144人の学生が参加した。  
開催4回目を迎える今回は、本学の協定校を含む33大学の紹介ブースや留学生とのチャットコーナー、留学相談コーナー、TOEFL iBTトライアルコー

市長、近隣大学関係者、学内教職員ら150名余りが出席し、事業の完成を祝った。

●北陸地区6国立大学 双方向遠隔授業システムが完成

北陸3県の6国立大学間で、講義の映像と音声を送受信する「双方向遠隔授業システム」が完成し、5月18日、富山大、富山医薬大、高岡短大、金沢大、北陸先端大、福井大の6大学の学長らが出席してシステムの竣工式典が行われた。  
このシステムは、6大学で作る「北陸地区国立大学連合」が目指す広域的な連携事業のひとつとして、各大学の学生の履修科目の選択枝を増やす目的で導入されたもので、式典はシステムを用いて本



4大学をシステムで結んで行われた式典

学を含めた4会場を結んで行われた。システムを使った授業は17年度後期から8科目の講義で試行され、来年度から本格的に導入される。(1~4面に関連記事)

●塩谷副大臣が角間、宝町両キャンパスを視察

塩谷副大臣は6月6日、本学を訪れ、林勇二郎学長らと懇談するとともに学内施設を視察した。  
副大臣は角間キャンパス事務局で、林学長から中期目標・計画、教育研究組織の改編、財務会計など本学の17年度の重点課題と取組について説明を受け、「金沢大は歴史と伝統を持った日本海側の基幹大学であり、広大なキャンパスも整備された。今後ますます教育、研究、産学連携などに努力願いたい」と本学への期待を述べた。その後、自然科学系図書館、自然科学棟、創立50周年記念館「角間の里」を見学した。  
続いて宝町キャンパスで、医学系研究科の寄附講座、医学部附属病院の再開発、医学系研究科改修(PFI)事業などに



病院棟屋上から宝町キャンパスを視察する副大臣(中央)

ナーなどが設けられ、会場を訪れた学生は協定校のブースで留学生から情報収集をしたり、チャットコーナーで留学生との会話を楽しんだ。



協定校のブースで留学生に相談する学生

●金沢百万石まつりパレードに参加

6月11日に開催された第54回金沢百万石まつりの「パフォーミングスパレード」に本学からおよそ70名が参加した。  
昨年に引き続き7回目の参加となった今年は、学生主体の参加となり、チアリーダー部の笑顔あふれる演技とジャグリング&マジック、サークルの楽しい演技で市民を魅了した。また、放送研究会の学生によるPR放送や留学生によるパレード、本学の教育研究



雨の中でも絶やさぬ笑顔で演技したチアリーダー部

社会貢献事業などを沿道の市民にアピールした。

●17名の新名誉教授に称号記授与名譽教授に新校舎を披露

5月28日、自然科学系図書館で名誉教授称号授与式が行われ、本年度新たに名誉教授となった17名に称号記が授与された。また、新名誉教授を含め50名余りの名誉教授が出席して、名誉教授懇談会が南福祉施設で行われた。例年、市内で行われている授与式と懇談会は、名誉教授に新設された校舎を見てもらおうと、今年は学内施設での実施となった。  
懇談会の前には、自然科学棟と創立50周年記念館「角間の里」の見学会が行われた。



●科学研究費「特別推進研究」に初採択

平成17年度の文部科学省の科学研究費補助金(科研費)のうち「特別推進研究」に、本学から申請していた「マイクロK温度領域に於ける量子臨界現象の研究」の採択が内定した。この研究は、大学院自然科学研究科の鈴木治彦教授を研究代表者に、同研究科の松本宏一助教授と阿部聡講師の研究グループによるもので、



協定書を交わす辻研究科長(左)と金岡校長(右)

ついて説明を受け、病院棟屋上から宝町キャンパスの整備状況を視察した。



古民家を移築した「角間の里」を視察する副大臣(右から2人目)

●医学関係貴重図書を寄附された稲坂暢氏に紺綬褒章伝達

昨年6月、本学医学系研究科の教育研究関係資料充実のため、貴重図書74巻を寄附された稲坂暢氏(医師・元医学部附属病院講師)に、4月21日、林学長から紺綬褒章が伝達され、併せて学長の感謝状が贈呈された。  
今回寄贈された医学関係図書には、蘭医スロイスやホルトマンの講義録等が含まれ、現在、医学部記念館資料室に展示されている。



補助金の交付内定額は17年度からの5年間で2億4千万円余りとなっている。  
「特別推進研究」は科研費のうち、国際的に高い評価を得ている研究で、特に多額の研究費を必要とするものに補助されるもので、本学で「特別推進研究」の採択は初めて。

●自然研と石川高専が推薦入学で協定

7月1日、大学院自然科学研究科と石川工業高等専門学校との推薦入学協定調印式が行われた。  
この協定は、石川高専の専攻科を修了あるいは修了見込みの学生を、本学大学院自然科学研究科博士前期課程に推薦で入学することができるようになっている。これまで石川高専の学生は本学に入学しているが、制度化することによって両校の関係がより親密になることが期待される。  
式では、辻研究科長と、石川高専の金岡千嘉男校長が協定書に署名、交換を行い、笑顔で握手を交わした。

# 金沢大学オープンキャンパス

8月9日(火)10日(水)

【詳しくは、金沢大学HPへ】

<http://www.kanazawa-u.ac.jp/enter/index2.html>

## オープンキャンパス・スケジュール

9:30/受付  
10:30/開始  
【主な内容】  
学部・学科等及び入試概要の説明  
教育・研究施設見学、模擬授業  
質問・相談コーナー  
キャンパス自由見学  
17:00/終了

当日は、学生食堂が利用できます。

●お申し込みは、金沢大学学生募集課まで  
TEL.076-264-5176~5179  
FAX.076-234-4042

## ■角間キャンパス

	9日(火)	10日(水)
文学部	○	○
教育学部	○	-
法学部	-	○
経済学部	○	○
理学部	○	○
薬学部	○	○
工学部	○	○

## ■室町・鶴間キャンパス

医学部医学科	○	-
医学部保健学科	○	○

※2日間とも同じ内容で実施します。ただし、教育学部・法学部及び医学部医学科は一日のみの開催です。



## 金沢大学「子ども見学デー・子ども参観日」

日時：8月24日(水)と8月25日(木)の2回、各9時~15時  
対象：小中学生(金沢大学職員の子もおよび一般の子どもたち)

大学キャンパスツアーや文化体験プログラム「金沢学」で和菓子づくりや和楽器、能楽などを留学生と一っしょに体験します。



●お問い合わせ・お申込み  
金沢大学社会貢献室 TEL:076-264-5290 FAX:076-234-4052  
URL:chiiki@ad.kanazawa-u.ac.jp

## 小・中学生のためのものづくり教室

日時：平成17年8月23日(火) 10:00~16:00  
場所：金沢大学工学部(小立野)及び自然科学研究科(角間)  
参加対象者：小学5、6年生および中学1、2年生

- キャンドルを作ろう (角間) (募集20人)
- 電子ディスプレイ (角間) (募集15人)
- 電子ピアノ (角間) (募集15人)
- からくりコースターをつくろう (小立野) (募集20人)



●お問い合わせ・お申込み 工学部 総務係 TEL:076-234-4576



## ●Acanthusとは?

「アカンサス」は、古代ギリシア・ローマに由来し、金沢大学の校章に使われている植物の名称(和名ハアザミ)で、角間キャンパスの各地区をつなぐ連絡橋の名称に使われるなど、学生・教職員に親しまれている。

## ご意見・ご要望

金沢大学では、より良い広報誌を作成するため、みなさまからのご意見・ご要望をお待ちしております。取り上げてほしい話題、質問したいことなど何でも結構ですので、下記までお寄せください。

〒920-1192 金沢市角間町  
TEL.(076)264-5024 FAX.(076)234-4015  
金沢大学広報室 宛  
E-mail:koho@ad.kanazawa-u.ac.jp  
HP <http://www.kanazawa-u.ac.jp/>

アカンサス第9号を発行してから早2ヶ月。次号を楽しみに待つておられる( )皆様にとっては長かったかも知れませんが、インタビューだ記事起こしたと、慣れないことに奔走する我々にしてみれば、もう第二号の締め切り?と、あつという間の2ヶ月でした。

おかげさまで第二号の出だしは好調。在庫がほとんどなくなりました。本部1Fエレベーター横のラックにいくら補充してもなくなるといふ状況で、担当者一同うれしい悲鳴を上げております。

次号以降も初心を忘れず、思わず手にとつてしまつようなアカンサスをつくってほしいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

(友)

